

R 元. 7. 20 山西小学校意見交換会

出席者 35 人

町教育委員会：森教育長・原教育委員

事務局：黒石教育部長・下條教育総務課長・竹本教育総務班長・永井指導主事・寺口指導班長（書記）

1. 開会

14:00～

2. 挨拶

森教育長から

3. 説明

- ・原道子教育委員 「小中一貫教育とは」
- ・大原学院の VTR を視聴
- ・永井指導主事 「二宮町小中一貫教育校設置計画案について」

4. 意見交換

論点①「教育内容とスケジュール」

中里地区住民：さまざまな理由で、他地区（私立など）に異動する場合、スムーズに学習が継続できるのでしょうか。

指導主事： 出来ます。小中一貫で 9 年間を見通した教育をしますが、移動した子どもが困ることがないように、違う学年のカリキュラムを勉強をするわけではありません。

中里地区住民：他学年との交流、地域との交流などを行うことによって、今でも行事などを行うのが大変そうなのに、勉強などが遅れてしまったり、急ぎ足で教えられたりしたら、ついて行けない子が出てきてしまうのではないのでしょうか。交流なら、今のままだもすることが出来るのではないのでしょうか。稲なども山西小学校ではバケツなどでしかやっていません。今出来る他学年との交流などをやってから小中一貫教育に移行してもいいのではないかと思います。そういうことは考えていないのでしょうか。

教育長：今でも交流を行うように依頼をしています。二宮小学校では、地引網を行ったりしています。山西小学校では玉ねぎの栽培などを行っています。また、小と中の乗り入れ授業として、例えばインクルーシブ教育を進めるために、支援級の

先生には小学校の先生が中学校ではどんなことをやっているのかなど、お互いに乗り入れの指導などを行ってほしいなどを依頼している所です。ワーキンググループというものを作って、各教科に分かれて、9年間を見越したカリキュラムの検討を行っている所です。

中里地区住民：小中一貫教育の成果を説明いただきましたが、小中一貫校ではないとできない成果なのではないでしょうか。例えば、中1ギャップの成果などは、逆にギャップがあった方がいいのではないかと思います。2つの学校が合わさることによって、どういう子があがってくるのかという期待感がありました。そのような意味でも、小中一貫教育はあまり意味がないのではないのでしょうか。むしろ、児童数が減る、先生の確保が大変、一定の人数の児童・生徒がいないと行事が大変だということを前面にあげたらいかがでしょうか。二宮町では児童・生徒数が減っていく中でどのように学校をしていくべきかという観点から議論をしていくべきだと思います。

教育委員：小中一貫教育校にしなければ解決しないというわけではありません。規模についても、適正規模を考えていかなければいけません。より良い教育システムと適正規模の確保を同時に考えた計画となっています。ギャップがあった方がいいというのは、確かにその通りですが、ギャップを歓迎する子もいますが、学習面などで意欲が落ちてしまう子もいますし、生活面などで心配なことが出てくる子どももいます。どうしたら、子どもの持っている本当の力を引き出すことが出来るかという事のひとつとして、システムの改善というのは一つの重要な考え方になると思います。

論点②「学校の場所と施設」、論点③「学区・地域」

越地地区住民：各地区に学校を1校残すという話だったのに、なぜ山西地区に学校がなくなってしまうのでしょうか。一色小学校の人数が少ないのに、山西小学校がなくならなければいけないのでしょうか。一色小学校と二宮西中学校の施設が一番古いと聞いているのに、なぜそこを残すのでしょうか。合理的ではないと思います。越地なので、ふた山を越えなければいけないので、二中の側に入れていただけないのでしょうか。この区割りでなければいけないのでしょうか。

部長：当面小学校区に1つの学校は残すということは、研究会でも考えていました。一色は小学校が1つしかないので、一色小学校を残し、山西地区についてはまずは二宮西中学校を統合して、令和12年までは山西小学校を残します。全体のバランスを考えて学校を残したいと考えて選びましたが、越地地区が通学が大変になることは認識しています。区割りの変更についてもこれから考えていきたいと考えています。古いのになぜ一色小学校を残すのかというお話についてですが、

一色小学校は校庭が広いので、中学校と一緒にした場合、活用がしやすいということも理由としてあげられます。

釜野地区住民：児童数が減っていくということも含めて、このような計画を立てているのであって、小中一貫校を作るために行うのではないですね。色々な町があって、税収の事なども考えていかなければいけないと思いますし、町の状況を全体的に考えていかなければいけないということが分かりました。

教育委員：大規模校では確かに小中一貫教育はうまくいかないと思います。児童・生徒数が減っていく中で、国が言っているように小中一貫校を作ることによって、子どもたちによりよい教育環境を作りたいという事です。

課長：この案で行く場合、越地地区は、二宮中学校の方が良いのかどうかご意見を聞かせていただきたいです。

越地地区住民：交通の利便性を考えたら、越地地区は、二宮中学区の方がいいと思いますので、その辺のことは配慮していただいた方がいいと思います。

釜野地区住民：学区の分け方がおかしい。2つの円ではなくて、3つの円を作ってはいかがでしょうか。

越地地区住民：円ではなくて、子どもの人口分布で色を付けて分けたらどうでしょうか。学校で決めるのではなくて、人口密度で分けてみたらどうでしょうか。

中里地区住民：地域にある学校として、コミュニティ・スクールを行っているのもう少しコミュニティ・スクールの成果が出るのを待って、時期を見直してはいかがでしょうか。ここから小学校がなくなるのは、地域とのかかわりを小中一貫教育を見通していかなければいけないと思います。山西地区から学校がなくなるには、もう少し地域が納得できる理由が欲しいと感じます。今後学区も変わるので、もっと色々な意見を聞いてから行ったらいかがでしょうか。スケジュールについての意見ですが、短期的目標、中期的目標を見据えて行うことになりましたが、最近では新庁舎のこともあって、多額の費用が掛かり、学校の改修の時期と重なってしまうのはとても心配です。令和12年に山西小学校がなくなり、2050年には最終的に1校になると思いますが、1校は町の真ん中に1校を新築して作って欲しいので、1校になることも含めて作る時期を見直しして欲しいです。各学区の希望を色々聞いて欲しいと思います。

その他全体的な質問

中里地区住民：なぜ二宮西中学校は一番に外れたのでしょうか。改修を行ってなるべく長く使える学校を選ぶべきなのではないのでしょうか。二宮西中学校は二宮の端にあるので、選びにくかったのでしょうか。

釜野地区住民：今の状態と小中一貫校のメリット・デメリットの対比表を作って欲しいと思います。少子高齢化について、費用対効果はどうなのでしょう。

課長：メリット・デメリットの対比表については作成して示したいと思います。

越地地区住民：小中一貫教育の良さが伝わって来ないです。学校数を減らしたいから小中一貫教育を行おうとしていると感じてしまいました。このままでは中途半端な小中一貫校しかできないのではないのでしょうか。人口が減るからくっつけたいということが大きいとしか思えません。本当にやるなら、本気の小中一貫校を目指して欲しいと思いますし、今二宮が少しずつ盛り上がっているのに、それを加味していなくて、魅力ある学校を作って、子どもたちが増えていく状況を作っていって欲しいです。

部長：町でも定住人口を増やす取り組みを色々行っています。転入される方は増えてきているので、減少ありきではなく、増やしていくための魅力ある学校づくりを進めていきたいと思います。

越地地区住民：小中一貫教育校というのは私はいいと思います。9年間子どもの個性を生かした教育をするには、とてもいいと思います。個性を生かしたグローバルな教育を二宮はしているとアピールして若い人を呼び込んでいければいいと思います。

中里地区住民：このような意見交換会に子どもを連れて行くのはハードルが高いと思います。子どもが幼稚園・保育園に通っている時間に意見交換会を行ってほしいです。在校生の保護者は卒業してしまうということで、関心が薄いようです。越地に今通っている保護者は今通わせるのが大変というお話をしていました。また、会場に来られない人の意見も聞けるような場も確保して欲しいと思います。一色小学校で単級が続いてしまうのであれば、一色小学校が山西小学校に行ったらどうでしょうか。子どもの意見も聞いてあげて欲しいと思います。

中里地区住民：お友達からの意見。小学校の統廃合によって、複数のクラスになることを期待していました。小学校・中学校の統合を先に考えて欲しかったです。

中里地区住民：小中で英語の相互乗り入れをしているそうですが、他の教科はどうす

るのでしょうか。教員免許のことはどうするのでしょうか。

教育長：現在、小学校の先生が不足しています。中学校の免許を持っている先生は自分の教科は小学校で教えることが出来ます。中学校の先生に小学校の仮免許を発行して教えられないかということで動いています。現在、小学校の先生は英語についての免許は持っていないので、英語の専科教員を加配として1人つけてもらい、3校を回っています。小学校の教員は中学校で免許法上教えることは出来ません。しかし、部活動などで小学校の先生も中学生を教えることが出来ます。現在、中学校の支援級の先生は自分の教科を教えながら支援級の授業を行っています。そこを小中一貫教育でフォローができるようにしたいと考えています。9年間を見越したカリキュラムを作ることを目指していますが、先生たちが動ける時間が作れるように加配を依頼しています。小学校の先生が子どもを連れて中学校に行って、見学してみたらどうかなども考えています。今、二宮町の中にはリタイアした力のある方がいっぱい眠っています。その方たちの知識を子どもたちに見せてあげれば、シニアの方も生きがいを感じるのではないのでしょうか。そこに小中の子どもたちが一緒になって活動していければ、コミュニティ・スクールが進むと思います。また、商店街の人たちにも協力してもらって、コミュニティ・スクールの活性化していただきたいと思います。そんな学校教育を進めていけたらいいと思います。